

ジャマイカ政治・経済月間情勢（2024年1月）

【要旨】

内政では、ゴールディング野党党首が影の内閣改造を発表した。経済では、世銀によると、ジャマイカの来年の GDP は 2%成長すると予想。外交では、中国の王外務大臣がジャマイカを公式訪問した。

1 内政

（1） ゴールディング野党党首、新たな影の内閣は地方の発展を中心に据えていると主張

野党のマーク・ゴールディング党首は、将来の人民国家党（PNP）政権は、党創設のルーツと価値観に則り、ジャマイカ国民に影響を与える問題についてより大きな発言権を得るため、地方レベルでの国民参加を促すことを目指すと述べた。ゴールディング党首は先週、新進気鋭とベテランの顔を織り交ぜた、刷新された影の内閣を発表した。複数の任期を務めた後、代表政治を辞める意向を示しているリサ・ハンナとモライス・ガイ博士が除外され、閣僚の任務が重複しているように見えることに疑問の声が上がっている。国会議員 63 人のうち 14 人しかいない野党は、下院で閣僚に異議を唱えることができる代表はほんの一握りしかいない。（14日付グリーナー紙）

2 経済

（1） 11月の住宅・光熱・燃料関連費用は減少

2023年11月までの年間ベースで、「住宅、水道、電気、ガス、その他燃料」部門に関連するサービスに対して消費者が支払う金額が減少した。ジャマイカ統計局（STATIN）によると、同部門のインフレ率は0.6%低下した。11月のみでは0.5%の上昇であった。これは主に電気料金が0.9%上昇したためである。「水道および住居に関するその他のサービス」の指数は1.3%上昇した。これは下水道料金と水道料金の上昇に連動したものである。（4日付RJRニュース・オンライン）

（2） ジャマイカの成長は続く-世界銀行

世界銀行は、2023年にジャマイカ経済は2.3%成長したと推定されると発表した。昨年6月の経済見通し報告書では、ジャマイカの国内総生産（GDP）は2%増加するとされていた。ラテンアメリカ・カリブ地域を見ると、1月の見通しに基づき、2023年の成長率予測も2.2%に上方修正された。

また世界銀行グループは、2024年の最新予測において、ジャマイカ経済は4年連続で拡大すると発表した。同グループは、2024年のジャマイカの国内総生産(GDP)は2%で拡大すると述べた。もしこの予測が正確であれば、2年連続で直近12ヶ月よりも成長が弱まることになる。明るい面としては、2024年の予測は世銀の2023年6月の報告書よりも0.3%高いことである。

ジャマイカ経済は2025年に成長が鈍化すると予測されている。世界銀行による最新の世界経済見通し報告書によると、2025年のジャマイカのGDPは1.4%増加すると予想されている。これは、2022年の予測成長率である2%を下回っている。一方で、昨年の2025年の予測ではGDPは1.2%であったため、この見通しは改善を反映している。実現すれば、2020年のパンデミックによる落ち込みから5年連続の拡大となる。カリブ海およびラテンアメリカ地域は、実質付加価値見通しがわずかに低下し、来年は2.5%となった。昨年の予測では、2025年の成長率は2.6%であった。

(10日、12日、15日付各紙)

(3) 2023年の観光旅行、予想を上回る400万人突破

観光省の推計と最新の空港データによると、2023年に約417万人の観光客がジャマイカに押し寄せ、航空機とクルーズ船による入国者数を記録的なレベルに押し上げた。航空機でジャマイカに入国したストップオーバー客については、入国者数は前年比で約17%増加している。417万人の内訳は、290万人のストップオーバーの航空機での入国者と、さらに126万5千人のクルーズ船での入国者である。

(14日付RJRニュース・オンライン)

(4) インフレ率、輸送費上昇で10カ月ぶり高水準に上昇

旅客輸送サービスの料金上昇により、2022年12月から2023年12月までの1年間のインフレ率は6.9%と10ヶ月ぶりの高水準となった。これは、ジャマイカ統計局(STATIN)が7.8%と発表した2023年2月以来、ジャマイカで測定されたインフレ率の最高値である。このインフレ率は、ジャマイカ中央銀行(B0J)の目標値である4~6%の範囲外である。また、9月と10月のインフレ率が所定の範囲内に収まったにもかかわらず、B0Jが政策金利を7%に据え置く決定を下した2023年最終四半期に、B0Jが提起したインフレ率の上昇との懸念も現実のものとなった。

(17日付オブザーバー紙)

3 外交

(1) 王中国外務大臣、ジャマイカ公式訪問

21日から22日にかけて、カミナ・ジョンソン=スミス外務・貿易大臣の招きで、中国共産党中央委員会政治局委員で中国外務大臣の王毅氏がジャマイカを公式訪問した。双方は、中国とジャマイカの関係、様々な分野での二国間協力、相互の関心事である地域問題や国際問題について意見交換を行った。2024年、王氏にとって初の海外訪問となる今回の訪問は、パンデミック以降、中国とジャマイカが初めてオフラインでハイレベルの交流を行うことを意味する。この訪問が関係の戦略的性質を豊かにし、二国間の実際的な協力を促進し、新時代の中国とジャマイカの戦略的パートナーシップを二国間関係の歴史における新たなマイルストーンへと推し進めることは疑いない。

また王毅外務大臣の表敬を受けたアンドリュー・ホルネス首相は、ジャマイカ政府首相就任以来、中国との卓越した二国間関係を維持しているとして、王毅外相から称賛された。また王外務大臣は、ジャマイカはカリブ地域の重要な国であり、ラテンアメリカ・カリブ地域の協力における中国の優先国でもあると述べた。過去40年以上にわたって、ジャマイカと中国の二国間関係は長い道のりを歩んできた。中国の外務大臣がジャマイカを訪問するのは2003年以来初めてである。

(22日付各紙)

4 日・ジャマイカ関係

(1) ブルーマウンテンコーヒーの日はジャマイカと日本の友好の象徴 - ジョンソン=スミス外相

ジャマイカ・ブルーマウンテンコーヒー(JBMC)の日は、世界最高級のコーヒーのひとつを称えるだけでなく、ジャマイカと日本のユニークな貿易・開発パートナーシップを強調するものである。カミナ・ジョンソン=スミス外務・貿易大臣は、この日を記念する声明の中で、この永続的なパートナーシップは、両国のコーヒー関係者が育んできた共通の情熱と国際的な友情の力の証であると述べた。この日は、ジャマイカコーヒー日本輸入協会(AJIJC)によって始められ、ジャマイカコーヒー輸出協会によって承認されている。1月9日は、1967年に日本が初めてJBMCの最大規模の出荷を受けた日であり、日本がジャマイカのコーヒー生産量の70%以上を輸入するようになった始まりの日である。(10日付ジャマイカ広報局)

5 その他

デング熱の流行が続いており、1月11日までに1,534症例が確認された。関連死者数は19名（疑い13名、確定6名）。（16日付ネーションワイドニュースネットワーク）

この資料は、ジャマイカの政治・経済情勢を中心に各種報道・発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は、在ジャマイカ日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。